

平成 30 年 5 月 16 日

各 位

会社名 シダックス株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 志太 勤一
(JASDAQ コード番号 4837)
問合せ先 取締役 経営企画本部長
山本 大介
(TEL. 03-5784-8909)

営業外費用の計上、特別利益の計上及び特別損失の計上並びに
通期連結業績予想の修正及び通期個別業績見込値と前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、平成 30 年 3 月期において、営業外費用、特別利益及び特別損失を計上するとともに、平成 29 年 5 月 19 日に公表いたしました通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。また、個別業績において、前事業年度の実績値と比較して差異が生じる見込みとなりましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 営業外費用の計上について（連結）

平成 29 年 10 月 31 日付「営業外費用の計上及び平成 30 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間業績予想の修正に関するお知らせ」及び「平成 30 年 3 月期第 3 四半期決算短信」にて開示いたしましたとおり、平成 30 年 3 月期第 3 四半期連結累計期間において、持分法による投資損失 1,321 百万円を営業外費用に計上しておりましたが、当第 4 四半期連結会計期間における持分法による投資損失が 418 百万円となり、平成 30 年 3 月期の連結決算において合計 1,740 百万円の持分法による投資損失を営業外費用に計上いたします。

2. 特別利益の計上について

(1) 関係会社株式売却益の計上について（連結）

平成 30 年 3 月 23 日付にて、当社の持分法適用関連会社でありました、Restaurant Hospitality, LLC (米国) の株式持分の 20% 全部を譲渡したことに伴い、平成 30 年 3 月期の連結決算において、関係会社株式売却益 488 百万円を特別利益に計上いたします。

(2) 厚生年金基金解散損失引当金戻入額の計上について（連結）

当社の連結子会社である大新東株式会社が入社していた「東京都自動車整備厚生年金基金」は、平成 26 年 9 月 24 日に開催された代議員会において、解散の方針が決議されました。この方針に基づき、平成 28 年 2 月 24 日開催の代議員会において、同基金の解散が決議され、その後の解散手続きの進行に伴い解散スケジュールに基づく損失見込額について合理的な見積もりが可能な状況となったことから、平成 28 年 3 月期の連結決算において 925 百万円の厚生年金基金解散損失引当金繰入額を特別損失に計上いたしました。同基金より、当社が負担すべき金額が当初算出した金額より減少する旨の通知があり、平成 30 年 3 月期の連結決算において、382 百万円の厚生年金基金解散損失引当金戻入額を特別利益に計上いたします。

3. 特別損失の計上について

(1) 減損損失の計上について(連結)

平成 30 年 3 月期の連結決算において、当社が所有する主に静岡県内のホテル、ワイナリー及びスポーツ施設等の用に供する固定資産並びに連結子会社が所有する主にレストランカラオケ事業の用に供する固定資産について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、2,181 百万円の減損損失を特別損失に計上いたします。

(2) 減損損失の計上について(個別)

平成 30 年 3 月期の個別決算において、当社が所有する主に静岡県内のホテル、ワイナリー及びスポーツ施設等の用に供する固定資産について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、905 百万円の減損損失を特別損失に計上いたします。

4. 通期連結累計期間連結業績予想値の修正

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想 (A)	152,000	2,200	970	500	12.83
今回修正予想 (B)	142,890	1,169	△1,387	△1,396	△35.84
増減額 (B-A)	△9,109	△1,030	△2,357	△1,896	
増減率 (%)	△6.0	△46.8	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 29 年 3 月期)	148,433	1,269	△2,966	△3,220	△82.61

5. 通期個別業績見込値と前期実績値との差異

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前期実績 (A)	9,526	1,155	411	△340	△8.74
見込値 (B)	8,627	△2,658	△3,164	△2,421	△62.12
増減額 (B-A)	△899	△3,813	△3,575	△2,081	
増減率 (%)	△9.4	—	—	—	

6. 修正及び差異の理由

(1) 連結業績

売上高につきましては、景況感の改善が見られつつも個人消費の本格回復に至らないなか、競合他社との低価格競争及び他業種との顧客獲得競争の激化、及び不採算店舗の撤退等の影響により、主にレストランカラオケ事業、コントラクトフードサービス事業及びメディカルフードサービス事業において、当初計画を下回る見込みとなりました。

営業利益につきましては、全グループをあげた赤字店舗の収益改善並びにコスト圧縮効果もあり、前連結会計年度比で前年度並みを維持したものの、売上高が予想を下回ったことにより、当初計画を下回る見込みとなりました。

経常利益につきましては、上記営業利益予想に加え、「1. 営業外費用の計上について(連結)」に記載しております持分法による投資損失の計上及び遊休資産の償却費の計上等により、通期業績予想値を大きく下回る見込みとなりました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、平成29年9月27日に開示しております、「固定資産(信託受益権)の譲渡及び特別利益の計上に関するお知らせ」のとおり、固定資産売却益2,693百万円を特別利益に計上した一方で、上記経常利益に加え、上記「3. 特別損失の計上について」に記載しております当社が所有する主に静岡県内のホテル、ワイナリー及びスポーツ施設等の用に供する固定資産並びに連結子会社が所有する主にレストランカラオケ事業の用に供する固定資産の減損損失2,181百万円の計上等により、通期業績予想値を大きく下回る見込みとなりました。

翌事業年度以降につきましては、引続き原材料・物流コストの高騰抑制と労務費管理の徹底によるローコストオペレーション体制をより一層推進し、業務の受託拡大と営業体制の強化を図り、収益性の向上に努めるとともに、事業ポートフォリオの再構築における選択と集中の実現により収益基盤の強化を推進してまいります。

(2)個別業績

売上高につきましては、主に当社連結子会社及び関連会社から業務受託収入が減少したことにより前期実績を下回る見込みとなりましたが概ね順調に推移いたしました。

営業利益及び経常利益につきましては、主にレストランカラオケ事業に係る子会社及び関連会社の業績悪化に伴い、これらの会社に対する当社債権等について、関係会社貸倒引当金繰入額を計上したこと等により、前期実績を下回る見込みとなりました。

当期純利益につきましては、平成29年9月27日に開示しております「固定資産(信託受益権)の譲渡及び特別利益の計上に関するお知らせ」のとおり、信託受益権を譲渡したことに伴い固定資産売却益を計上した一方で、経常利益の減少や、上記「3. 特別損失の計上について」に記載しております主に静岡県内のホテル、ワイナリー及びスポーツ施設等の用に供する固定資産の減損損失905百万円の計上があったこと等により、前期実績を下回る見込みとなりました。

7. 財務制限条項への抵触について

業績予想値の修正に伴い、複数の金融機関との間で締結しておりますシンジケートローン契約に規定する財務制限条項の「平成30年3月期末における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額を、直近の事業年度末日における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額以上に維持すること」及び「平成30年3月期末日における連結損益計算書に記載される営業損益を22億円以上にすること」に抵触する見込みとなりました。そのため、関係金融機関等に対しまして、期限の利益喪失に関わる条項を適用することなく当該契約を継続するよう申し入れた結果、契約が継続される見込みとなっております。また、手許資金についても十分に確保しており、当面の資金状況は安定的に推移する見通しです。

以 上